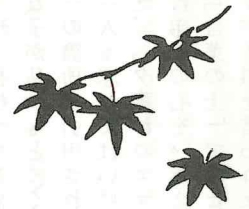


仙台司教区

教区事務所だより



(第 36 号)
昭和55年10月1日

仙台教区司祭大会

テーマ「聖書による信仰教育」

昭和55年度、仙台教区司祭大会が、9月8日から10日まで、仙台市のセントラルホテルを会場にして開催された。この司祭大会は2年に一度開かれるもので、今年は佐藤司教をはじめ、60名の司祭が参加した。

ふだんは司牧に忙しい司祭達が一堂に会し、司教を中心とする司祭団の一致と親睦を深めながら、聖書をテーマにして夜遅くまで話し合った。

第一日目は「聖書と司祭」というテーマで、平田師から、「私は戦争の中で神の存在を信じるようになった。復員後、聖書を通して、神さまとは、常にひとりひとりの人間と共に生きておられる方である、と分かるようになった」と体験を通しての講話があった。

第二日目はツィゲル師と三浦師がそれぞれ旧約聖書と新約聖書から、「現代日本へのメッセージ」というテーマで講話をした。ツィゲル師は、「創造主であると同時に、歴史を

支配しておられる神を忘れてはならない。神の生命の言葉を無視する時、即ち小さき者の

人権が守られない時、人類は滅びる。神の真の礼拝は、小さき者へ向けられる心と切り離してはならない」と、現代にあってキリスト者が預言者的役割を果たすよう呼びかけた。

三浦師は、「福音に生きるものが私達の使命であり、福音が要求するものを現代社会の中に正しく見いだすことが必要である。さらに、外部へ向かうよりも内部の見直し(刷新・回心)が求められているのが、現代の教会の傾向と思われる」と述べた。

午後からは3人の司祭の聖書教授法と体験発表があり、特にラポア師は、一家に一冊ではなく、一人に一冊の聖書が是非必要であることを強調した。

第三日目は、佐藤(守)師から、アンケートのまとめが発表された。このアンケートは、仙台教区の今後のあり方を探るために、全司

祭へ出されたものである。司祭数の減少が避けられない事実となった今、教区民全体が宣教と司牧の両面にわたって考えなければならぬ問題が含まれている。今後、司牧評議会等でも十分に論議されるであろう。

10日は日本二〇五福者の祝日でもあり、司教様を囲み、全員で感謝のミサを捧げ、明日からの宣教に力を得て解散した。(梅津明生)

ガスバリ教皇大使

仙台司教区公式訪問予定

10月24日ー金 郡山・会津若松

25日ー土 会津若松・磐梯町・福島・仙台

26日ー日 仙台

27日ー月 仙台・築館・盛岡

28日ー火 盛岡・八戸・青森

29日ー水 青森・大湊

30日ー木 大湊・三沢

(三沢から飛行機で帰京)

司教様の日程

10月5日 釜石教会堅信式

6日 司教協・財務小委員会

10日 福島県カトリックの集い(会津若松)

12日 八木山教会堅信式

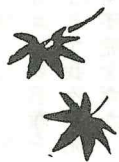
16日 司牧評・役員会

16日ー17日 東京大神学院・常任委員会

18日 浪打・信徒リーダー研修会

19日 浪打教会堅信式

24日ー30日 教皇大使仙台司教区公式訪問



岩手地区
教会委員懇談会 行わる



去る7月12日(土)・13日(日)、岩手カトリック・センターにおいて、岩手地区の教会委員懇談会が行われた。一日目は17時から「司牧評議会の報告」に対する討議、特に司祭不在の小教区への対応について話し合われた。司教様が招集している研究グループに信徒を送るようという報告に対して、代表の位置づけがむずかしく、オプザバーの参加でもよいのだろうか、というような質問も出た。また、司祭がいるうちに信徒は「どのようなことを」「どのように」「どこまでできるか」を司教様から指導していただきたいとの強い要望が出された。19時から懇親会が行われ、なごやかな雰囲気の中に一日目は終わった。

翌日は朝食後9時から「社会問題研究会のすすめ方」についてカトリック社会問題研究所の相沢氏を講師に招いて、社研とは何か、社研を作るにはどうしたらよいか、いろいろの具体例をあげてのお話を聞いた。犬養美智子さんの言葉を引用して、「右手に聖書、左手に新聞」ということで相沢氏のお話は終わったが、後で、自分と社会とのかかわりを大切にしなければ、と皆感じたと思う。11時からミサが行われ、その後記念撮影、昼食で午前の部は終わった。

午後から第三のテーマ「教会の自立について」、主に教会の財政問題について各教会の現状が報告された。各教会共通の悩みは、維

持費の集め方についてであった。しかし、その後いただいた管区長の言葉はもっと根本的な信徒の心についてであった。「私達一人一人がもっと教会であることを意識し、喜びと感謝の心で大人の信徒としての責任をもたなければならぬ。」

最後に、司祭・修道者の召命の祈りを各教会で祈ることを約束し、16時散会した。

(伊藤宏子)

心にひびく宣教を



△仙台教会学校教師の会研修会▽

去る8月23・24日、東仙台ナザレト幼稚園で、仙台教会学校教師の会研修会が行われた。今回は講話が中心のプログラムで、講師は、東京フランススコ会渡辺義行神父様で、かつて北海道で僅か6人の子供を軸に百人以上の教会学校を作られた方。先生は非常に優しく温厚な方であると同時に、内には強い信念を持っておられるのを感じた。それゆえ我々は心を開いてお話を聞くことができ、教師としての自覚を促され、進むべき道を考ええた。

まず、「幼な子が私のもとにくるのを拒んではいけない」の箇所を引用され、子供を大切にし、どの一人も忘れてはいけないことを言われた。また、「夕暮れのエマオへの道」でイエスの話は弟子の心を燃えさせた。事を引用され、「言葉の上」ではなく、「心に響く宣教」をすべき事を言われた。

最も印象的だったのは次のお話である。教会学校は、イエス、使徒に始まる福音の継承の一環であり、我々教師は、福音を述べ伝えるに行つたかつての使徒たちに比する事ができる。使徒にむかつてイエスが教えられた言葉は、まさにわれわれ教師がいかにすべきかを語っている部分なのである。

聖書の中で、使徒たちが、イエスの言葉を理解できなかった事もある。まして我々が完全にはできないはずがない。自分も不完全だが、一生懸命神さまに向かおうとしているんだ、という事を謙虚に示すことが、子供たちの最高の導きになるのである。

なお、研修会参加者は、仙台を中心に、角田、亘理、会津若松からも来られ、総勢31名であった。

最後に、この会の準備、設営にあたって下さった方、会場を提供して下さい下さった幼稚園、修道会の方々に感謝しつつ。
(元寺小路教会日曜学校・三谷 尚)

人事異動



◎ ケベック外国宣教会

* カナダに帰国 II ジャン・ルイ・フォーレ師 (仙台・一本杉教会主任)

* 一本杉教会主任 (暫定) II ロベール・ベルニエ師 (青森・本町)

◎ 聖ドミニコ女子修道会

* 日本管区長 II Sr 武田教子から、Sr 村上武子に代わりました。

「出会い」をテーマに

―宮城県カトリック中学生夏季合宿―

8月5日～8日の4日間、国立花山山少年自然の家において、宮城県カトリック中学生夏季合宿が行われた。昨年までは元寺小路教会が中心になって行なっていたが、今年から宮城県レベルに規模を拡大して行うことになったのである。その結果、9つの教会から中学生45名、指導者も含めると合計60名という大所帯となった。

心配した雨も二日目以後すっかりあがり、目玉の登山こそ中止になったが、オリエンテーリング、野外炊飯、キャンドルサービス、キャンプファイヤー等、予定していた行事のほぼすべてを行なうことができ、中学生にとって良き思い出となった。

さて、今年、「出会い」というテーマで合宿を行なったが、プログラムの上でも、グループ内での協力を必要とするゲームを沢山盛り込んだり、他己紹介を行なう等、「出会い」の機会を作るよう工夫をこらしたものが多かった。しかし参加した中学生は、リーダーがとやかく言わずとも、四日間の共同生活の中のいろいろな場を利用して、新しい友人を作ることができたようであり、テーマは一応達成されたと思う。しかし、合宿での出会いを人生における本物の「出会い」にするためには、今後更に、各教会の中学生会間の関係を密接にし、合同の行事を積極的に行なっていきたいと思う。

夏 人 の 若

最後に合宿のために働いて下さったリーダーの方々、そして一粒会はじめ各教会からの援助を心から感謝いたします。
(元寺小路教会・里井孝至)

福島県で

青少年のつどい活発

【その一】浜通り中・高生の集い

カトリック精神に基づいた若人の友情と連帯意識を高めようと、8月17～19日、福島県浜通りの教会合同で、中3と高校生の集いが五浦ドミニコの家で行われた。

「分かち合い」をテーマに、キリスト者ライフ、コミュニケーションを三本の柱として、地域中高生の交流を計り、学生として自分達の生き方を見つめ見直そうというのが狙いである。11名の参加者がプログラムの編成から進行、炊事、会計等すべてを担当し自主運営方式で行われた。聖書の分かち合いはモレン師が指導。村田、横尾両伝道士が進行面を援助。社会人として東京で働いている村田氏が三日間の休暇を返上して良き先輩として参加されたことは意義深いものがある。自由討論では次のような事が話された。

(一) 浪人について

● 浪人は時間のムダ● なりたくてなるのではないのに世間の目は冷たい● 卑屈になる● 悪い遊びを覚えやすい● 浪人中に人間勉強ができるのでは？● 永い人生、

一年位大した事はない。あせらない気持ちを作る、それが勉強。
中高生の教会に出来ない理由

● 勉強に追われる● クラブ活動を含め、年中、学校に行かねばならない● 忙しい事を認め親もあまりやかましく言わない● 教会へ行っても面白くない● 典礼も説教もよく分らない● 仲間がいない

その他、この集いについては、自主的に計画してやったのはよかった。来年もぜひやりたいとの大多数の意見があり、又、集いばかりでなく、時々会い機会を持ちたいとの意見もあった。

【その二】福島県カトリック青年の集い

中高生の集いに続いて同じドミニコの家で8月23・24の両日、福島県カトリック青年の集いが行われた。福島、会津、平等から男女10名の参加者があり、ドミニコ会ポロ神父も若人とのふれ合いを求めて参加した。

問題点として、青年達は現状打破を考えているが、対成人層、又お互いの間でも理解されない面がある。功をあせらず辛抱強くやろうと強調した。そのために聖職者、教会委員等も陰の協力者となる事が必要と痛感させられた。この集いのテーマである若人の触れ合いと連帯が、今日ほど必要な時はない。その意味でも教会の青年達はキリストの肢体であるという自覚を持って、一步一步、歩んでいかなければならないと思う。

(広報委員 古田繁男)

おらが教会 (2)



四ツ家教会

盛岡教会の歴史は古く、創立は一八七三年。以来百有余年の経緯は「岩手福音宣教百年史」に詳しい。岩手カトリック・センターの機能もあわせもつ現在の四ツ家教会が、信徒の寄付、スイスからの浄財により、えび茶の堂々たる偉容を完成させたのは一九七八年。信徒六八八名の集いのひろびろである。市のほぼ中央に位置する教会からは、官庁、大通り商店街へそれぞれ歩いて五分程度。近くの白百合学園移転後の広大な敷地には中央郵便局が移ってくるようになっており、教会にとり色々な意味で有利といえる。

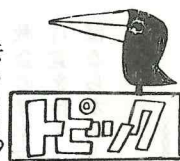
活動団体としては、壮年会（クリスマス行事等、教会新聞「ひろば」の発行）、婦人会（年中行事）、青年会（会員の多くが教会学校のリーダー）、聖家族会、墓地・財政・宣教委員会、共助組合（組合員への融資）、アクトオ・マリエ、マリッジ・エンカウンター（最近とみに活発化）などがある。

共同体として教会が現在力を入れているのは、信徒間の「横のつながり」を達成すること。

と。神の恵みと力は全て人を通してやってくる。従ってもっと横向きにというのである。具体的には地域別ブロックの隣組の紐帯を、連絡員の不断の接触を通じて血の通いあつた生きた神の民の有機的連帯とする。この地域的きずなは、前述の各会の働きにより更に強化されねばならない。

主任のヨゼフ・フリーゲントブレル師は、スイスはサンガレン州の産。四ツ家は在任四年だが来日は一九四八年。その精力的な行動力の秘密の一つには山歩きがある。カメラはプロ級で、特に露と花、残雪と花などは愛するモチーフ（個展数回）。助任にはマルチン・パウマン、マルコ・ゲンベルリの両師が主任の両腕となつて活躍。ウリ州出身のバ師、サンガレン州出身のゲ師は、チビとノッポという対照的な組み合わせだが、精神的・知的にも相補う特性を生かしての見事なチームワーク。バ師は主として高校生指導と教会学校。成人教育の専門家のゲ師はマリッジ・エンカウンター指導と青年会及びスカウト、聖歌を担当。

四ツ家教会の力の源泉として、ツィゲル師がある。師はベトレヘム会日本管区長、岩手カトリック・センター所長、上堂教会主任という激務にもかかわらず、四ツ家教会学校リーダーの養成、数多くの聖書の集い（教会及びブロックで）を行なうことにより、家庭における信仰教育の柱である主婦の育成を推進する聖霊の息吹的存在である。師の指導、助言を受けて、「家庭における信仰教育の手引き」が、父母のグループにより作成中である。



カンボジアの人々のため

街頭募金 〆福島V

去る6月29日午後1時から、福島市内キリスト教連合会主催の街頭募金が、福島駅前等市内十か所で行われた。野田町教会からは、小学生から大人まで17名が参加、プロテスタントの教会の参加者も合わせて二十数名が街頭に立ち、街行く人々に、募金を呼びかけた。集まった12万四千九百八十円は、信夫教会小林牧師を窓口として、カンボジア難民センターへ送られた。

これは楽しい原画展

〜どんくまさん 仙台へ〜

去る8月11日から15日まで、東北電力グリインプラザで開かれた第一回「こどものせかい」どんくまさんシリーズ絵本原画展は、盛況裡に終了した。どんくまさんとうさぎ達の織りなす、ほのぼのと楽しいお話の原画は夏休み中の子ども達と、大人にいたるまで魅了したようで、5日間の入場者は一八六名にも及んだ。

河北新報の子供のページにも大きく取り上げられるなど、多くの方々が楽しんで下さったことを「絵本の会」(代表・元寺小路教会・渡辺清さん)の関係者は、喜んでゐる。

雨あがりの長崎はむし暑かった。8月23日から始まった。80・全国カトリック青年大会。会場日本二十六聖人殉教地には、全国各地から千三百人位の青年が集まった。

ぞくぞくと集まってくる見ず知らずの人々にも何の異和感もたず、同じ信仰を持っているという連帯感があったのは、自分にとって不思議なことだった。自分からいきなり声をかけていったとしても相手は必ず答えてくれると疑わなかった。「出合いのミサ」は、夕方6時から屋外で立ったままで行なわれた。時折りかけぬけていく風が無性に心地よい。2時間以上にもわたって行なわれ、終わったのは長崎の夜景が美しい時であった。これから青年大会の始まりだという気負いもなく、ただミサが終わったという安堵感に浸されていた。

20日の分科会で、私は「黒崎・出津」の巡礼コース。長崎はどこでもそうなのであろうか、かつて激しいキリシタン弾圧のあった所らしいが、みごとに晴れ上がった青い空と青い海は、多くの殉教者の血が流された所だというイメージをもつことを許さなかった。

この日のミサは黒崎教会で、その地区の人々と一緒にあずかった。私たちはどこへ行っても、次の教会を背負って立つ若者達」という言葉とともに熱烈な歓迎を受けた。事実、長崎の人達は、私に



「全国カトリック青年大会」に出席して

元寺小路教会 安藤めぐみ



は考えられない程、教会をまず第一に考えていた。黒崎地区では、少なくとも一家族から一人聖職者が出ているという話があつたり、道を歩くおばあさんの手にロザリオが握られているのを見たりして、宗教と実生活とが密接な関係にあるように感じられた。

大会最終日の25日になると、班の人と大分気軽に、これから自分達のなすべき事は何か?などというテーマで話し合ったりもした。この話し合いの中で一番強く私が感じたことは、余り緊張せずに、伸び伸びと生きていきたい、ということだった。多少の無茶も可能な年頃なのだから、気楽に気軽に、たまには思い切り背伸びをして、困りをゆっくり見渡しながら生活できたら最高だなーと思った。

今回の「全国カトリック青年大会」は新しい試みだったらしい。2年程前から準備に取りかかり、今年8月23日(土)〜25日(日)の3日間が大会期間となった。

キリストという共通点を持つ若者達がキリストという旗の下で3日間、同じ時間を分かち合えたこと、私の得たものは大きかった。この大会に出席して、私は人と人との触れあい、つながりの不思議さを知って感動していた。その感動は、2週間以上たった今でも、鮮明に心の中に残っている。

「ありがと」の言葉とともに。

シノドスのために祈ろう

△特別祈禱日：10月12日(日)▽

第六回シノドスのための

(教皇様の) 祈り

「すべての人の父である神よ、天にあっても地にあっても、すべての家族は、あなたを父と仰いでいます。あなたはまことに愛といのちの源。

一人の女性、マリアからお生まれになった御子イエズス・キリストによって、また愛の泉である聖霊によってお願い致します。

全世界の家庭が代々にわたってまことの愛といのちの神殿となりますように。

あなたの恵みのうちに、夫婦の思い、行ないを導き、すべての家庭のしあわせの礎としてください。

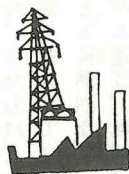
また、若い世代が家族のきずなを支えられて、人間の品位を高め、真理と愛のうちに、成長することができるよう。

結婚の秘跡の恵みに強められる愛が、人生の旅路で直面する困難や試練よりも、力強いものであることを示して下さい。

ナザレの聖家族の取り次ぎによって、教会が家庭の中で、また家庭を通して、社会における使命を果たし、豊かな実りを結ぶことができますように。

聖なる父よ、御子と聖霊と共に真理であり愛であるあなたにこの祈りをささげます。

ミニ情報



★ 修道女連盟研修会の

おしらせ

日時 11月2日(日)午前9時受付〜15時散会

テーマ 「受肉の神学」

講師 奥村一郎神父様

場所 仙台白百合学園

★ 「修道生活の体験を

このころみてみませんか？」

日時 10月10日(金)PM 5時〜12日(日)PM 1時

会費 三千円

場所 ● 983 仙台市原町小田原安養寺下112

オタワ愛徳修道女会

対象 修道生活について考えている方

定員 10名

申込先 オタワ愛徳修道女会

シスターモニック・ブッシュエ

電102222-5615279

住居表示変更

のお知らせ



昭和55年10月6日から、次のように住居表示が変更になります。(郵便番号983は変わりません)

●カトリック仙台司教館

旧 仙台市原町小田原字土手前5-11

新 // 東仙台六丁目8番5号

●カトリック東仙台教会

旧 仙台市原町小田原字土手前5-11

新 // 東仙台六丁目8番1号

ので、おどろいた。

募金に立って
野田町教会 松本修治(小六)
去る6月29日に、福島市内の教会の5・6年生の子どもと大人あわせて二十数名の人達で、人通りの多い所に立って、カンボジア難民のための募金をしてもらった。募金をしてもらえるか、心配だった。人通りの多いエンドーチエーンの前で、「カンボジア難民のために、御協力お願いします」と大きな声でさげんだ。

同じような顔で、同じ地球に住んでいる人なのに、こんなに貧富の差が大きい

このごろは、難民のことが、ニュースなどに出ないので、みんなは、忘れてい

るのかもしれない。でも、カンボジアは、今、夏をむかえている。きっと今までよりも、大変な生活をしているにちがいない。だから、この募金集めに協力しようとしたのである。ぼくたちの集めたお金で、カンボジア難民が、少しでも豊かになるだろうと思うとうれしく思う。

このような運動に、また参加したいと思う。

●聖ヨゼフ布教修道女会

旧 仙台市原町小田原安養寺下一一二

新 // 東仙台六丁目8番10号

●ナザレト幼稚園

新 仙台市東仙台六丁目8番15号

●ナザレト保育園

新 仙台市東仙台六丁目8番20号

●オタワ愛徳修道女会 本部修道院

旧 仙台市原町小田原安養寺下一一二

新 // 東仙台六丁目8番25号

●光ヶ丘スベルマン病院

旧 仙台市原町小田原土手前5

新 // 東仙台六丁目1番1号

●ラ・サール会

旧 仙台市原町小田原字案内18

新 // 東仙台六丁目12番1号

●ラ・サールホーム

旧 仙台市原町小田原字案内18

新 // 東仙台六丁目12番2号

【編集後記】

*長崎で全国カトリック青年大会が開かれ、仙台からも数名参加しました。長崎での感激の火を、小教区でも燃やし続けてほしいもの*教区内でも今年夏は青少年のつどいが多かったようです。21世紀をにらみ若者達に神の祝福を祈ります。

10.1.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.10.

仙台司教区事務所だより36号

昭和五十五年十月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371